

神奈川県鎌倉市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※□内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年	2022年	2023年	2030年（目標値）	達成度（%）
1	市内で希望する職場で就労できていると感じる市民の割合【5.b、8.2、8.3、8.9、9.2、9.5】	2019年 47.2 %	2021年 44.4 %			2025年 51 %	-74%
2	仕事と生活のバランスがとれていると感じている市民の割合【8.2、8.3、8.9、9.2、9.5】	2019年 52.5 %	2021年 55.2 %			2025年 56 %	77%
3	鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合【5.1、5.4、5.5、10.2、11.7、17.14、17.17】	2019年 86.9 %	2021年 90.5 %			2030年 90 %	116%
4	多様性を尊重し、支え合う社会（共生社会）が実現していると思う市民の割合【5.1、5.4、5.5、10.2、11.7】	2019年 52.8 %	2021年 60.2 %			2025年 70 %	43%
5	「地域におけるコミュニティ活動（自治会・町内会・NPO活動など）が盛んなまちだ」と感じている市民の割合【5.5、10.2、11.7】	2019年 41.6 %	2021年 69.2 %			2030年 71.5 %	92%
6	鎌倉市を応援する気持ち（鎌倉市へのふるさと寄附金の額）【5.1、5.4、5.5、10.2、11.7、17.14、17.17】	2019年 743,442 千円	2021年 1,711,271 千円			2030年 1,800,000 千円	92%
7	豊かな歴史的遺産が大切に保全され、伝統的な文化が保存・継承されているまちだと感じている市民の割合【11.4】	2019年 83.2 %	2021年 85.6 %			2025年 85 %	133%
8	豊かな自然や自然的景観を大切に保全するとともに市民がみどりふれあえるよう積極的な活用を図っていると思う市民の割合【11.4、11.a、12.8、13.1、13.3】	2019年 78.4 %	2021年 84.5 %			2025年 80 %	381%
9	市内のごみの焼却量【7.2、11.4、11.a、12.5、12.7、12.8、12.b、13.1、13.3】	2019年 29,992 トン	2021年 28,483 トン			2025年 15,727 トン	11%
10	リサイクル率【7.2、11.4、11.a、12.5、12.7、12.8、12.b、13.1、13.3】	2018年 52.5 %	-			2025年 71.7 %	-
11	公共建築物の耐震化率（災害時の拠点となる施設）【7.2、11.4、11.a、12.5、12.7、12.8、12.b、13.1、13.3】	2019年 96.4 %	2021年 97.6 %			2025年 100 %	33%
12	文化活動が活発であり、新たな文化の創造・発信を行っているまちだと感じている市民の割合【11.4】	2019年 63.2 %	2021年 70.9 %			2025年 69 %	133%

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況（2021年～2023年）

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度（%）
1	持続可能な都市経営に向けた取組	市内事業所における従業者数	2016年 68,800 人	2021年 66,970 人			2023年 69,600 人	-228.8%
		市内事業所数	2016年 7,226 件	2021年 7,050 件			2023年 7,310 件	-209.5%
		市内で希望する職場で就労できていると感じる市民の割合	2019年 47.2 %	2021年 44.4 %			2023年 49 %	-155.6%
		鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合	2019年 86.9 %	2021年 90.5 %			2023年 88 %	327.3%
		地域におけるコミュニティ活動（自治会・町内会・NPO活動など）が盛んなまちだと感じている市民の割合	2019年 41.6 %	2021年 69.2 %			2023年 62.5 %	132.1%
		鎌倉市を応援する気持ち（鎌倉市へのふるさと寄附金の額）	2019年 743,442 千円	2021年 1,711,271 千円			2023年 1,400,000 千円	147.4%
		豊かな自然や自然的景観を大切に保全するとともに市民がみどりふれあえるよう積極的な活用を図っていると思う市民の割合	2019年 78.4 %	2021年 84.5 %			2023年 80 %	381.3%
		市内のごみの焼却量	2019年 29,992 トン	2021年 28,483 トン			2023年 25,638 トン	34.7%
		リサイクル率	2018年 52.5 %	2021年 -			2023年 55 %	-
		市の業務全体から生じる二酸化炭素排出量（エネルギー起源）	2017年 18,874 t-CO2	2021年 -			2023年 16,709 t-CO2	-
公共建築物の耐震化率（災害時の拠点となる施設）	2016年 96.4 %	2021年 97.6 %			2023年 100 %	33.3%		

神奈川県鎌倉市 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況（2021年～2023年）

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
2	「働くまち鎌倉」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」の実現	市内事業所における従業者数	2016年 68,800 人	2021年 66,970 人			2023年 69,600 人	-228.8%
		市内事業所数	2016年 7,226 件	2021年 7050 件			2023年 7,310 件	-209.5%
		地域で子育てを支えるまちが実現していると感じる市民の割合	2020年 43.3 %	2021年 57.9 %			2023年 48 %	310.6%
		まちづくりが計画的に進められ、生活しやすい市街地が形成されているまちだと感じている市民の割合	2019年 25.9 %	2021年 35.2 %			2023年 17.5 %	201.1%
3	共生社会の実現・共創関係の構築に向けた取組	地域で子育てを支えるまちが実現していると感じる市民の割合	2020年 43.3 %	2021年 57.9 %			2023年 48 %	310.6%
		就労している障害者数	2019年 1,526 人	2021年 1810 人			2023年 2,000 人	59.9%
		平均寿命と健康寿命の差（男性）	2016年 1.72 歳	2021年 -			2023年 1.68 歳	-
		平均寿命と健康寿命の差（女性）	2016年 3.68 歳	2021年 -			2023年 3.64 歳	-
		消費生活センターに寄せられた消費生活苦情件数	2018年 1,970 件	2021年 1,389 件			2023年 1,800 件	341.8%
4	鎌倉市の魅力に磨きをかける取組	緑地保全契約の面積	2018年 53 ha	2021年 48.3 ha			2023年 53.8 ha	-587.5%
		指定文化財の数	2018年 610 件	2021年 607 件			2023年 620 件	-30.0%
		市内における自動車の旅行速度	2017年 18.1 km/h	2021年 -			2023年 20 km/h	-
		市内から排出されるごみの総排出量	2018年 58,623 トン	2021年 28,483 トン			2023年 57,012 トン	1870.9%
		リサイクル率	2018年 52.5 %	2021年 -			2023年 55 %	-
		市の業務全体から生じる二酸化炭素排出量（エネルギー起源）	2017年 18,874 t-CO2	2021年 -			2023年 16,709 t-CO2	-
5	市民の安全・安心な生活の基盤づくりに向けた取組	公共建築物の耐震化率（災害時の拠点となる施設）	2016年 96.4 %	2021年 97.6 %			2023年 100 %	33.3%
		自宅周辺の自然災害リスクを知っている市民の割合	2020年 75 %	2021年 75.3 %			2023年 95 %	1.5%

(3) SDGs未来都市計画推進のKPI達成に係る評価及び課題等

指標（KPI）達成に向けて、概ね順調に進んでいる。特に順調に進んでいる項目は、鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合や鎌倉市を応援する気持ち（鎌倉市へのふるさと寄附金の額）である。鎌倉市への愛着が市内市外ともに順調に増えているため、引き続き、進めていきたい。

他方、緑地保全契約の面積や埋蔵文化財の数といった指標は、当初値より後退しており、本市の魅力につながる指標が減っている。これらについては、関係者の理解によるところが多いため、関係者理解を更に得ながら指標達成を目指していく。

市内事業所における従業者数、市内事業所数、市内で希望する職場で就労できているといった指標については、経済センサスの調査が5年に1度のため、正確な数値が把握できていない。そのため、当初値から実績値が減った要因については把握できていないが、指標達成のための取組を検討していく。